

令和元年6月27日現在

機関番号：32711

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01895

研究課題名(和文) 在米エルサルバドル系とメキシコ系の政治意識・行動とエスニック・アイデンティティ

研究課題名(英文) The Political Attitudes and Behaviors, and Ethnic Identities among Salvadoran and Mexican Residents in the U.S.A.

研究代表者

中川 正紀 (Nakagawa, Masanori)

フェリス女学院大学・文学部・教授

研究者番号：70295880

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本国生まれのエルサルバドル系二重国籍者では米国政治と本国政治への関心・参加は同程度に高いが、本国へのノスタルジアによる将来の帰国希望者が大半である。投票目的で一時帰国する者は、米国籍取得は本国からの親族等の「呼び寄せ」手段と考えるが、それ以外では、女性の方が米国籍取得に米国政治への参加という政治的価値を見出している。在米エルサルバドル国民の本国政治への参加意欲の傾向を渡米年代別に分析すると、大統領選挙だけでなく、在外国民を代表する国会議員選出への関心も高いこと、近年の渡米者では政治参加の前提となる本国の身分証明書の所持自体は関心の高さを表わさないことなどが、アンケート調査によって判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

二重国籍者を含む在外国民が日常的に持つ移民先国・出身国との様々な関係には、物理的なものだけでなく心理的なものも含まれる。こうしたトランスナショナルな関係は、グローバル化が進む現代社会ではごく当たり前となっている中で、具体的にいかなる形がありうるのか等、日本の「移民の大量受け入れ」の時代を前に考えておくべき課題を知ることができる。特に、在外国民に本国の選挙権を保障することはグローバル化社会における国家の責務とされる傾向が強まっているが、その範囲や方法については議論が分かれる。このテーマに関する他国の事例研究は、客観的な判断材料の蓄積につながるといえよう。

研究成果の概要(英文)：Among the Salvadoran dual nationals born in El Salvador, there are high levels of interest and participation both in U.S. and Salvadoran politics, but most hope to go back to their native country in the future because of their nostalgia for it. Those who regularly return to El Salvador to vote tend to think of acquiring U.S. citizenships as a way of bringing their family members from El Salvador, but among those who do not, more women than men find a political merit of participating in U.S. politics in becoming U.S. citizens. Meanwhile, if analyzing the tendency of the will to participate in Salvadoran politics among those living in the U.S., the findings are as follows: there are high levels of interest in the elections of MPs representing their nationals abroad as well as of Presidents, and it does not mean they have high levels of interest in Salvadoran politics only because they possess ID cards peculiar to El Salvador which are needed to participate in Salvadoran politics.

研究分野：地域研究

キーワード：エスニック集団間の比較 トランスナショナルな関係 国際労働力移動 アイデンティティ 定量的研究 グローバル化と国民権 在外国民の本国政治参加 国籍と国民意識

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1970年代以降、ロサンゼルス(以下、LAと略記)市およびその近郊にラティーノの新興集住地区が出現し、メキシコ系住民以外に中米系住民の存在も散見されるようになった。LA地域のメキシコ系に関する学術研究の蓄積は古くからあるが、中米系研究は1990年代後半頃に漸く始まり、21世紀に入ってからはコミュニティ調査の成果も報告されている。研究代表者は科研費研究課題、基盤研究(B)「米国ラティーノ社会における階層分化の進行とエンパワーメントの史的展開」(2005~2007年、研究分担者)にて、近年ラティーノ人口の急増が著しいLA郡南東部のラティーノ住民499名の社会経済的階層と米国での政治的志向の相関関係をアンケート調査し、所得レベルよりもアメリカン・ドリーム達成の一大指標とされる持家の有無の方がかれらの政治意識・行動との関係性が強いことを見出した。これを踏まえ、本研究では、本国政治への関心・関与をも考慮し、サルパドル系とメキシコ系の政治意識・行動を比較調査して、ラティーノの政治観の共通性と多様性を探ることとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1) 在米エルサルパドル系住民とメキシコ系住民の本国政治に対する関心度・参与度と米国の選挙政治・「非選挙政治」(労働・社会運動やボランティア・コミュニティ活動)に対する関心度・参与度のデータをアンケート調査で収集し、両者の政治意識・行動を比較分析すること、及び(2) 在米サルパドル系社会と本国との繋がりが世代交代や環境(本国やホスト国での法的地位や経済状況等)の変化からいかなる影響を受けるかについて、在米メキシコ系社会の歴史社会的経験との比較を通じて考察すること、である。以上から、各集団の帰属意識が、本国か米国かの二者択一でなく、むしろ多層的・流動的で、各人の社会経済的背景、米国での様々な体験・境遇、及び本国の政治・経済的な情勢・制度等に依りて変わりうるという仮説を検証した。

3. 研究の方法

初年度は、事前調査の結果と、サルパドル系・メキシコ系に関する文献調査や現地の動向を基に、平成27、28年度予定の本調査の計画を練った。また、本調査への協力と調査作業員の手配を、LA地域の複数の大学にメールを通じて打診し、事前調査の結果、27年度夏は対サルパドル系本調査を、28年度夏(実際は29年度夏となった)は対メキシコ系本調査を実施し、28年度秋以降は調査分析結果から全体的結論を導き、成果の公表に向けた作業を進めた。全体として、政治意識の調査経験に基づいて調査計画を立て、研究方法は、文献調査と現地の人々の談話等に基づいて質問項目を検討し、調査結果はクロス分析し、両集団の比較研究を「研究の目的」欄の設定課題に沿って進めた。

4. 研究成果

(1) 在米エルサルパドル系の本国および米国の選挙政治・「非選挙政治」(労働・社会運動やボランティア・コミュニティ活動)に対する関心度・参与度に関するアンケート調査データから、特に本国生まれの二重国籍者のアイデンティティを考察した。関心・参与度は両国の政治に対して同等に高く、本国選挙での投票目的に一時帰国する者も約6分の1存在した。一方、本国生まれの二重国籍者の約85%が、たとえ米国で持家や市民権を取得しても米国市民意識を持たない人たちである。理由は、その半数が将来に本国への永住帰国を希望し、市民権取得を米国政治に参加するための一種の手段と見なす傾向が強いから、と分析できる。すなわち、両国の国籍を持ち、政治関心・参加度は両国に対し同程度に高いながら、心情的にはおそらく本国にノスタルジアを感じ、条件が整えば本国へ永住帰国したい者が大半を占める。

(2) トランスナショナリズムに基づく諸行動の中で、本国生まれの在米エルサルパドル系二重国籍者が本国選挙での投票を目的に一時帰国する事例に注目し、米国籍取得理由および「永住帰国の夢」から、その行動の理由を考察した。投票目的で一時帰国する集団は、年1回は帰国し、それ以外の集団に比し、米国籍取得に政治的価値を特に見出しはおらず、むしろ本国からの親族等の「呼び寄せ」手段と考える。一方、それ以外の集団では、女性の方が米国籍取得により大きな政治的価値を見出し、米国での移民の被差別的状況を改善したいという現状変革的な意識が高い。また、投票目的の一時帰国集団では、将来的な本国への永住帰国の願望が強く、帰国のタイミングを治安・政情の安定化という本国状況の改善に求める傾向も強い。同集団では、本国との往来を「自由化」する米国籍の取得自体が、永住帰国への「近道」と認識されているといえよう。

(3) ピューリサーチセンター(Pew Research Center)によると、2007年から15年にかけて、米国の全移民人口は10%増加した中で、メキシコ系移民は6%減少する一方、中米北部三か国出身の移民は25%の増加を見せた。しかしながら、中米北部三か国の一つ、エルサルパドルに限って言えば、米国への大移動の原因となったとされる中米紛争が1992年の和平合意によって終結を迎えたにもかかわらず、その後、現在まで対米移民の流れが衰えることなく継続しているのはなぜなのか。その主な原因を、中米紛争当時から本国強制送還者を通じてアメリカ合衆国から「輸出」されたギャング文化とその拡大による組織的暴力に求め、まずはその観点から中

米紛争以降のエルサルバドルからのヒトの流れの歴史を考察した。そのうえで、アンケート調査の結果データを用いて、「暴力」から逃れてきた人々のプロフィール(入国形態、調査時点の法的身分、本国との物理的・心理的結びつき、本国への将来的な永住帰還の意志の有無など)を明らかにし、近年の中米からの移民の流れの真相の解明が可能となった。

(4)メキシコ系住民対象のアンケート調査では、以下のことがこれまでのエルサルバドル系調査の結果と比較して解明できた。1980年代から米国で増加したエルサルバドル系住民と対比して、19世紀半ばから在米の歴史を持つメキシコ系住民の特徴について指摘できた点を以下に挙げる。米国生まれも多く、三世・四世も見られ、制度上、二重国籍のみならず米国籍のみの若者も多い、なかでも、二世の若者には、二重国籍、米国籍に関係なく、自らを「メキシコ人」あるいは「メキシコ系アメリカ人」と考え、メキシコのルーツに誇りを持つ人が多い、在留資格のないメキシコ人も多数おり、多くが渡米後の帰国・渡航の経験を持つ。定期的に米国・本国間を行き来していたり、いったん本国に帰国したが生活が困難なため再び米国に戻ったりするなど、米墨国境線をまたぐ「トランスナショナル」な移動が日常化している印象であった。また、元々米国南西部は米国ではなく、自分達の土地であって、後から力で捻じ曲げられた「国境線」など意に介さないというメキシコ人としての誇りや信念が感じられた。

これらのメキシコ系の特徴は、出自が一つの国境線をはさんで陸続きの国が三つの国境線を越えなければたどり着けない国かの違いからくるものともいえる。それでも、ラティーノ移民の中で比較的新しいエルサルバドル系社会でも、米国生まれの世代の比率が今後高まって行くことが予想される。メキシコ系社会の現状は、ある意味、エルサルバドル系社会の将来を大まかに示していることは間違いないだろう。(これについては近著参照)

(5)在米エルサルバドル国民と本国との関係の強さを量る一つの視点として、彼らのアイデンティティと本国政治に対する関心・参加意欲に焦点を当て、実際の投票経験、政治参加のための前提条件となる統一身分証明書(DUI)の取得状況、本国選挙への参加意欲を問うアンケート設問に対する回答を、特に渡米年代別傾向に注目して、分析・検討できた。DUI取得率自体は渡米年代により高低があるものの、本国選挙への参加意欲はDUI導入以前に渡米したグループでは、DUIを持っていない人達の中にも、本国にいた頃は政治参加意欲が高かった人が多かったのに対して、その後の世代のDUI非所持者についてはもともと政治参加意欲が高い人の比率はそれほど高くなかった。また、全体としては大統領選挙への参加意欲が高い一方で、在外国民を代表する国会議員選出への関心も高いこと、そして、近年の渡米グループではDUI所持自体が本国政治への参加意欲を表すわけでないことなどがわかった。また、現行の国外投票制度の持つ課題とともに、二重国籍者や永住権保持者にとってのメリットとデメリットについても明らかとなった。(これについては近著参照)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- (1) 中川正紀、永住権保持者の「帰化」を促すもの、妨げるもの：エルサルバドル系移民女性にとっての米国市民権、『フェリス女学院大学文学部紀要』査読無、第54号、2019年、pp.79-103。
- (2) 中川正紀、内戦終了後のエルサルバドルからの対米移民の継続的流入とその原因：暴力から逃れて来る移民たち、『フェリス女学院大学文学部紀要』査読無、第53号、2018年、pp.137-156。
- (3) 中川正紀、本国生まれの在米エルサルバドル系二重国籍者に見られるトランスナショナリズムの背景：政治意識・行動、米国国籍取得の理由および「本国への永住帰国の夢」の分析から、『フェリス女学院大学文学部紀要』査読無、第52号、2017年、pp.33-57。
- (4) 中川正紀、在米エルサルバドル系住民のアイデンティティとトランスナショナリズム：2015年のサンフランシスコとロサンゼルスでのアンケート調査結果に基づいて、『フェリス女学院大学文学部紀要』査読無、第51号、2016年、pp.91-115。

〔学会発表〕(計1件)

- (1) 中川正紀、在米エルサルバドル系二重国籍者のトランスナショナリズムと政治意識：持家や米国市民権を取得しても「アメリカ市民としての意識」を待たない人たち、日本ラテンアメリカ学会定期大会、2016年。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：中川智彦

ローマ字氏名：Motohiko NAKAGAWA

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。